

優秀賞

二十ねんごにまたあおう

福岡県 福岡教育大学附属福岡小学校一年 小山 一織

ぼくは、おぼんにみやぎきにきました。そこで、うみがめのかあちゃんが、うみにかえっていくところを、みることができました。あさはやくにうみにいくと、うみがめのせんせい、たくさんのうみがめのかあちゃんをここに連れてきてくれました。六ねんぶりに、そのかいがんにうみがめのおかあさんがたまごをうんだそうです。

せんせいが、うみがめのことをいろいろとおはなしをしてくれました。ぼくのころにのこったのは、「かめのかあちゃんはうみにはいるといちもくさんにおよいで、アメリカにしかいがんにいきます。そこには、しょくりょうが、たくさんあるからです。二十ねんごにこのかいがんにたまごをうみにもどってきます」というはなしです。ぼくは、せんせいに、「おんなじところがわかるんですか。」とききました。せんせいは、

「ちゃんとはしょをおぼえています。」
といいました。ぼくは、こんなにちいさなあかちゃんが、二十ねんたってもわすれないでおんなじばしょにかえってくるといわれてとてもびっくりしました。

いよいよ、うみがめのかあちゃんをうみにかえすじかんになりました。いっせいに、あかちゃんたちがうみにむかっていきました。そのなかに、まえあしがうまくうごかないかめのかあちゃんがありました。そのあかちゃんが、とちゅうでひっくりかえってしまいました。ぼくがもどしてあげようとしたけど、せんせいが、

「じぶんでもとにもどれないと、うみではいきいていけないんだよ。だから、さわらないで。」
といいました。ぼくは、かめがわるいわけではないのに、くるしそうにもがくあかちゃんをみて、なん

だか、かなしくてくやしいきもちになりました。

「がんばれ！がんばれ！がんばれ！」

ぼくは、いつのまにかいっしょけんめいおうえんしていました。かめがついにもとにもどって、うみにむかってあるきだしました。ほかのかめよりも、ずいぶんおくれたけど、うみにはいつていきましました。ぎぶーんっ、ぎぶーんっとくるなみに、なんども、なんどもおしもどされても、ひっしでうごかないまえあしをつかって、まえにすすもうとするあかちゃんかめは、とてもかっこよかったです。きつと、あのかめは、アメリカにしかいがんにいけるとおもいます。あきらめずに、まえにすすむかめにまけないように、ぼくもがんばろうとおもいました。

「おーい。二十ねんごにまたあおう。」

と、ぼくがおおきなこえでいうと、「わかったよ」といって、てをふってくれたきがしました。

